

【学校教育目標】

主体的に行動する児童の育成

～児童の多様性を認め、主体的に学習や活動に取り組む力が育つ学校～

三つの合言葉 「正しく」 「強く」 「和やかに」

【本校の現状と課題】

- 「新体力テストの数値分析の結果」より
 - ・男女ともに、多くの種目においても県・全国平均の記録を下回っている。特に「ソフトボール投げ」「反復横跳び」「20mシャトルラン」が課題である。
- 全体的な見取りより
 - ・「運動が好きな児童」は進んで運動をしているが、「運動を苦手と感じている児童」は全く運動を行わない姿が見られる。これは新体力テストの結果にも大きく影響を与えていると考えられることから、いわゆる「運動の二極化」が全体的な傾向としてある。

【取り組み】

安全に運動できる場の提供

運動場の北側をドッジボール等のボール遊び、南側をおにごっこやなわとび等の遊びをする場とすることで、多くの児童が安全に運動できるようにした。

体育部が運動場に、ドッジボールコートを常設したことで、朝や15分休みにも児童が進んで運動するようになっている。また、ルールを守り、譲り合って遊ぶ姿を期待している。

ドッジボール大会

年間3回（6月・12月・2月）体育・安全委員会主催のドッジボール大会を実施する。児童自身でチームを作り、休み時間等を使って練習をして、低・中学年、高学年の2つのグループ内でトーナメントを行い、優勝を決める。

ドッジボール大会には3つのねらいがある。1つ目は、運動に進んで取り組むことで、基礎体力の向上を目指す。2つ目は、ドッジボールの練習を行うことで、ボール技能の向上を図る。3つ目は、低学年から高学年のすべての男女が参加できるようにすることで、児童の活躍の場の設定を図る。児童に人気の球技であることや、教員や友だちの応援が励みとなり、児童は積極的に参加しており、負けた児童も次回の開催を楽しみにしている。

運動に親しむ児童を増やすための工夫

全学年の学級付けボールに「ライトドッジボール」を配布した。当たっても痛くないので女子児童も進んでボール遊びができ、多くの児童が、投げる、避ける、受けるという運動をするようになってきた。



【目標】

- 「新体力テストの数値における目標」
 - ・男女とも「ソフトボール投げ」「反復横跳び」の記録を県平均以上にする。（令和4年度体力運動能力調査の結果）
- 運動に親しむ意欲・運動習慣における目標
 - ・昼休みの外遊び実施率を全校で90%以上にする。（遊びンPICの結果）